

変える農業

5



オランダ・サイオン社の胡蝶蘭栽培施設。IoTを駆使し24時間稼働。全世界へ輸出されていく

国際IT財団 プログラムディレクター

日下部 裕美子

ビッグデータ・AIを活用した農業の転換期に

アグリテックニカ、フードバレー視察を通じ、アグテックと農業の未来を垣間見た。アグテックは、最新技術を搭載した農機などの圃場での革新に留まらない。農機・倉庫などのロボティクス、衛星やドローンによるデータ収集と活

テック革新」が起きていることは一般にはまだ認識されていない。多様な技術・ビジネスモデルからは多様な職業や専門性が生まれる。米国の農業専門オンライン・ベンチャーキャピタル・フラットフォーム企業のアグファンダーの求人サイトを見ると、「アグロエコノミスト」「アグセールススペシャリスト」「収穫後専門サイエンティスト」「フィールドテクノ

日本では、生産効率向上面でアグテックは注目され始めているが、農業が持つ成長性、将来性を意識した取り上げ方は海外と比べ少ない。海外では、農業と食品の分野の革新的なビジネスモデルが生まれおり、海外の大企業は既にM&A、スタートアップへの投資、自社のデータ農業事業立ち上げなどでこの潮流にのっている。また、日本では、農業人口の高

品産業を包括した一貫したサービースが拡大しようとしており、個人の嗜好や健康状態に合わせたスマートフードを消費する時代がそこまできている。食品の安全性・品質が益々追求される中、農業・食品産業はもっと注目を浴びてほしい分野である。今回、欧州視察に参加したメンバーはIT、金融、物流、エドテック（教育×テクノロジー）、バ

イオ起業家、メーカー、食品、研究者と異業種の若手

用、施設園芸（写真）などのIoT/センシング技術やバイオ技術、農産物のサプライチェーン、物流、オンライン市場、農業経営管理アプリ、eグロスリー（食品のオンラインショップ）、スマートキッチン、革新的な食開発発種トキッピンなど）、と多岐にわたる。そしてそれぞれに付随して、新たなビジネスモデルが生まれる。農業とそのバリューチェーン全体を包括的にとらえた「アグ

ロジスペシャリスト」、「グロスハッカー（成長ハッカー）」、「デジタルファーマーミングマネジャー」「地球観測サイエンティスト」「収穫遺伝子学データサイエンティスト」と目新しい職種に埋め尽くされた求人者が並ぶ。アグファンダーによれば、アグテック分野のスタートアップの2017年資金調達・投資額は合計約1兆円に及び、うち株式公開した案件は約200〜500億円規模に上る。

年齢化や後継者問題が深刻化しているが、これからの農業の担い手には、農作物栽培の技術に加え、IT、バイオ、機械工学、ビジネス経営知識、新しい発想で新規市場やプロダクトを見出し、事業化する実行力が重要になってくる。若手人材育成のためには、農業専門学校のカリキュラムや教科書も変わるべき時が来ている。

農業×IoTは、従来の農業のイメージをくつがえすものだ。食

（おわり）